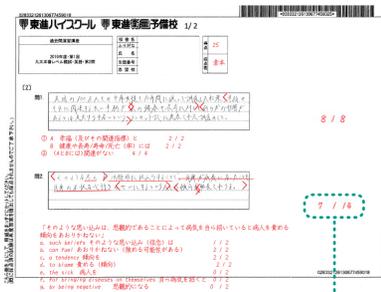


【例1】志望校別単元ジャンル演習講座

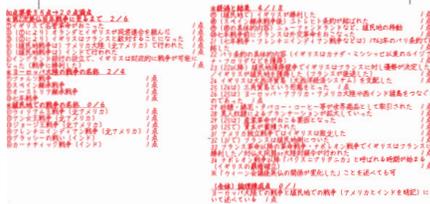
英語 九大対策



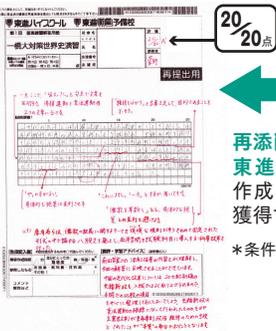
POINT 部分点を正確に採点

記述問題を自学自習するうえでネックとなるのが答え合わせです。特に「部分点」を自力で採点するのは困難。各講座で実施する添削指導では、各科目のスペシャリストが減点の理由や部分点がついたポイントを指摘してくれるため、演習と添削の復習を繰り返すことで、確実に記述力アップを狙うことが可能です。

世界史 京大対策



【例2】記述型答案練習講座

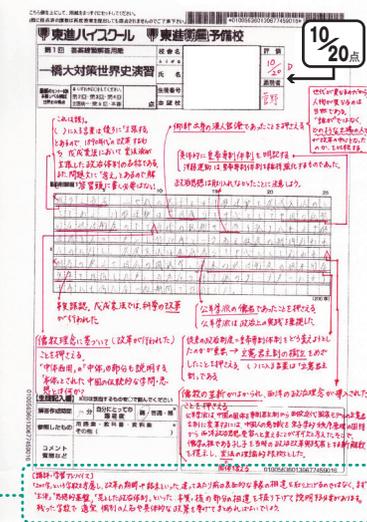


再添削指導を実施するのは東進だけ！繰り返しの答案作成練習で、1点でも多く獲得する力を身につける。
*条件を満たせば、再々添削も可能。

POINT 今後の課題を明確に

【講師・学習アドバイス欄】では、「200字という短い記述でまとめる場合は、表面的な事象を取り上げるのではなく、本質的・核心的な部分を掘り下げる」というアドバイスを頂きました。着実かつ効果的な記述力アップのために、この「自分だけの解説書」をしっかり理解し、次回に生かしましょう。

世界史 一橋大対策 世界史演習



東進の添削指導をご紹介します

難関大現役合格のためには、これまで身につけた学力をもとに、作問者の問に対して論理的に解答を表現する力（答案作成力）が必要です。この力を身につけるために東進では、生徒が実際に解答を作成し、各科目のスペシャリストが添削指導を行います。

添削指導は国公立大二次および一部の私立大の「過去問演習講座」と「記述型答案練習講座」、そして「志望校別単元ジャンル演習講座」第一志望校対策演習講座の対象となる問題にて実施します。



自分一人では決してできない過去問の採点

記述の採点と配点・部分点がわかることが、過去問演習のカギ

東進タイムズが実施したアンケートで「過去問を解いていて困ったことはありますか？」と質問したところ、多かった回答は「記述の採点ができない」「部分点がわからない」「設問ごとの配点がわからない」の3つでした。できたかできなかったか程度はわかっても、正確に自己採点ができないのが難関大の記述問題です。

入試では、「合否を決めるのは1点の違い」というように、たった1点の間に数十人がひしめきあっています。その1点を見極め、より精度の高い答案を作成できるようにするためには、第三者の目による採点や添削が必要なのです。

*画像はイメージです。また、教育効果を高めるため、内容雨を変更する場合があります。

